



▲水浴びをするカワラヒワ=2011年5月17日 木更津市



▲コスモスの種子を食べに来たカワラヒワ
=2010年11月13日 木更津市



▲カワラヒワの群れ=2008年1月17日 木更津市

©成田篤彦

かずさの博物誌

カワラヒワ

～四季折々に風雅な
たたずまいを見せる～

文・写真／成田篤彦

2012.4.20

©成田篤彦



▲カワラヒワ スズメ目 アトリ科 留鳥
=2011年4月28日 木更津

©成田篤彦

カワラヒワのさえずりが「ビーン、ビーン」と春の青空に響き渡つていった。たまに「キリリコロコロ、キリ」と小さく鳴き、また、「ビーン」と大声で鳴く。

朝、頭上の電線に止まつて鳴いている。このさえずりを聞くと「ああ、また過ごしやすい季節が訪れた」と嬉しくなる。

このビーンという声は小鳥が鳴いているとは思えないほど大きく、金属的な響きを含むのでやや喧しく感じる人がいるかもしれない。人によつてはセミの鳴き声に聞こえるといふ。しかし、それに続く、ささやくような「キリリ、コロロ、キリリ」と鳴く声は、つましやかで、いかにも可愛らしく、カワラヒワの姿にふさわしい。

春先には2羽でいることが多く、ハコベ、タンポポ、ノボロギク、コオニタビラコの種子を、初夏には菜種の花の種子を食んでいる姿をしばしば目にする。盛夏にはヒマワリの畑に十数羽のカワラヒワが群れて、種子を一つずつくわえて、皮をむいてのみ込む姿が見られる。夏が過ぎると群れをつくり、いろ

さて、カワラヒワはアジア北東部で繁殖し、日本では北海道から九州まで一年中普通に分布し、繁殖している。もちろん、上総でも身近にいる。もちろん、上総でも身近にいる。もちろん、上総でも身近にいる。いつもいる小鳥である。それにもかかわらず、私もそうであつたが、一般の方は意外にご存じない。

そのわけは、スズメとほとんど同じ大きさ、体形なので、シルエットになるとほとんど区別がつかない。しかし、尾の形が、スズメと違つて凹形なので、慣れればすぐにわかる。それに、つばさに鮮やかな黄色の模様がある。

春先には2羽でいることが多く、しなやかなポプラの梢に川原鶲居りよさに河原鶲来る小菜畠水あみてひらひら上がる川原鶲海上俊臣各務支考

例えば次のようないいかげでしようか？

河原鶲群をこぼれて鳴きにけり

海上俊臣

しなやかなポプラの梢に川原鶲

居りよさに河原鶲来る小菜畠

葉貫琢良

鳥だから、皆さんも一句作つてみて

鳥だから、皆さんも一句作つてみて